

からたまで
ナビ

国内で新型コロナウイルスの流行を広げているのは子どもではなく主に大人であることが日本小児科学会の調査で分かってきた。子どもも大人と同じように感染するが、インフルエンザと違って子どもが大人にうつすケースはそれほど多くないようだ。



森内浩幸・長崎大教授



授業が再開された小学5年生の教室 = 8月、名古屋市

コロナ流行、大人が拡大

休校は子どもにも悪影響

増えつつだ。同学会の理... 事を務める長崎大の森内... 浩幸教授は「休校が長引... くと学びの機会が奪われ、子どもたちの心と体... の健康に悪影響を及ぼ... す。実施には慎重な検討... が必要だ」と指摘する。
(感染者集団)も発生し... 同学会が9月末までに... 集めた20歳未満の症例デ... ータによると、感染経路... が判明した約370人の... うち7割以上が家庭内で... の感染だった。父親から... 子どもにも感染させる。学... 校や保育施設から家庭に... 持ち込まれて社会に広が... るインフルエンザとは対... 照的だ」と話す。
理由は何かだろうか。ウ...

健康・医療

- 近視や難聴には要注意
- 障害補助ツールに有効

スマホ利用に光と影

総務省の調査では日本人の6割が所有するスマートフォン。大音量による聴覚障害、近くで画面を見続けることによる近視への懸念がある半面、視覚、聴覚障害者の補助ツールとしての有用性が確かめられている。市民公開講座「スマートフォンの光と影」(日本学術会議主催)が開かれ、専門家がこの両面について講演。適切な使用法を守る一方で、補助具としてはさらなる活用、普及を図ることを提言した。

スマートフォンの光と影

注意点	可能性
<ul style="list-style-type: none"> 80~85デシベルより大きな音は悪影響 イヤホンは1日1時間まで 使用後は耳を休める 睡眠も大事、騒音には耳栓 	<ul style="list-style-type: none"> マスク使用で不便6割 スマホとAIで音声の文字変換機能が高度化 雑音のない磁気ループシステムの普及を
<ul style="list-style-type: none"> 小児の近視が世界で急増 スマホは人の目が経験したことのない強い刺激 近視のほか、斜視の危険も 保護者が使用時間管理を 	<ul style="list-style-type: none"> 文字拡大や読み上げ機能が既に実装 色調補正など多様なアプリ 音声入力で移動と情報アクセスが容易に

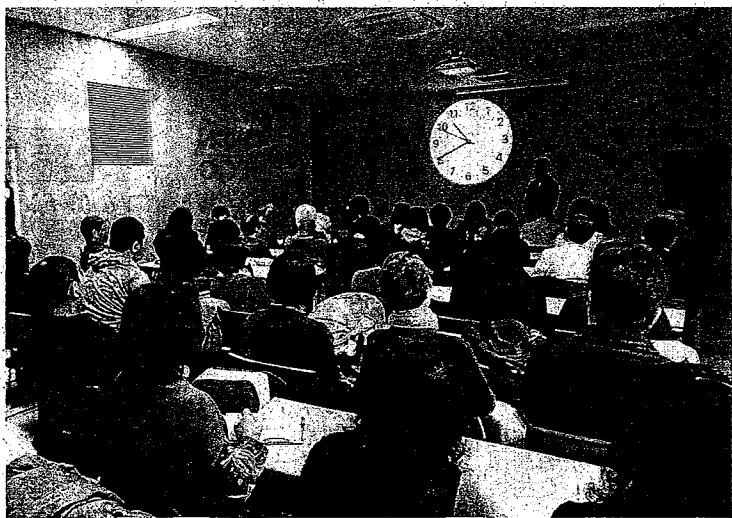


耳を休める

聖マリアンナ医大耳鼻咽喉科の小森学講師は、騒音が聴覚に与える影響について注意喚起した。小森さんによると、聴覚に悪影響があるのは80~85デシベルより大きな音。スマホの音量を制限する国もあるが、日本の機種は100~105デシベルの出力が可能で、これは、車のクラクションを間近で聴くほどの音量になる。小森さんは「悪影響を防ぐためにはイヤホン使用を1日1時間にとどめ、使用後は耳を休める

よく心に掛けるように

十分な睡眠や、日常の騒音を耳栓などで避けることも大切だ」と話した。外の音をシャットアウトする機能があるヘッドホンも有用だという。視力への影響に関しては東京医科歯科大眼科の大野京子教授が登場。小児の近視が世界的に急増し、日本でもここ30年で約3倍に増えたとのデータを紹介。「小さな画面を間近で見つめるスマホは人の目が経験したことのない強い刺激になる」と注意を促した。近視だけでなく、寝転



ネクストビジョンが開催した視覚障害者向けのスマホ活用に関する情報交流会 = 2018年12月、東京都内(三宅琢氏提供)

環境整備を

京都市大耳鼻咽喉科・頭頸部外科の山本典生准教授は、新型コロナウイルス感染症の流行でマスクの装着が増え、口元が見えないことで聴覚障害者の6割が不便を感じているとの調査結果を基に、聴覚を補助するスマホの可能性に言及した。山本さんは、スマホの普及と人工知能(AI)の進歩により、音声で文字に変換する機能が高度化できるとして、技術開発の一層の強化を提言。諸外国の建物や交通機関では、スピーカーではなく電磁誘導の仕組みを使って、磁気コイル付きの補聴器や人工内耳に雑音のない音を伝える「磁気ループシステム」の導

つながり広げる

また、音声入力と日本語変換の進歩の実例として動画を再生。声で指示するだけでアラーム設定や天気の確認、メッセージ送信、日程管理、飲食店を探して道順を調べるなどがわずか3分で可能なることを示した。三宅さんは「スマホは視覚障害者の『移動と情報アクセスの困難』を解消し、人とのつながりを広げるツールになり得る」と強調した。障害者の生活を補助する新しい支援アプリについては、東京都障害者IT地域支援センターの「やくたち情報」のページに掲載されている。(共同)由藤庸二郎

日本学術会議主催の市民公開講座の講演から作成